

(11) 応感（應感）神社（おうかんじんじや）

住所： 三重県伊賀市法花 2350

TEL： 0595-20-1828

訪問日：2014年6月8日

伊賀鉄道「上野市駅」より約6km

主祭神：応感之神

祭 神：建御名方之命、宇迦能御魂神、五男三女神、速玉男神、建速須佐之男命、
譽田別命、大山祇命



鳥居



参道の石段



手水舎

主祭人は応感之神であるが、「三代実録」記載の神号「応感之神」考によると「伊水温故」による諏訪社“建御名方神”はその昔藩入植者の祖霊神で現在祭礼した当時の旧宮跡が現存する。「伊水温故」による神像十一面観音像を奉じて藩入植者は奈良法華減罪寺莊園として血縁神宇迦能御魂神を祀り農耕神として奉斎した。現在当時の旧宮跡が存在する。以上二系統の入植者の共同神は“応感之神”と考えられる。（佛典、佛語を以て神号を“応感之神”と称し、村名も法華村と称した。）とあるようにスサノオの孫に当たる宇迦能御魂神やさらに数世の孫に当たる建御名方神の共同神として“応感之神”が祀られていることから、この神社をスサノオの章で紹介することにした。

由 緒：当社の創祀については詳らかにし難い。「三代実録」によれば、863年応感之神に充五位上に叙せられている国史見在社である。近世の地誌である「伊水温故」によれば、諏訪大明神の社と称され祭神は建御名方神で神像（本地十一面観音像）を安置しており、鎮座地は法華村と伝えている。江戸時代を通じ、近郷の人々の産土神として多くの崇敬者を集めていた。社傳によれば現在地に鎮座されたのは天正伊賀の乱以降ととされている。

明治40年（1907）同境内社・津島神社 大字法華鎮座無格社山神社を合祀した。

明神造の大きな朱色の鳥居からさらに車で細い道を数分間上ると駐車場がある。それから木々に囲まれた長い石段をしばらく登り、阿吽の石の狛犬の間を通り抜けて上っていくと「應感神社」の額東がかかった明神造の朱色の木の鳥居があり、さらに石段を登ると右手に手水舎がある。



本殿と護国靖国之宮



本殿



勧請縄と藁飾り

そこから数段登り、割拝殿をくぐると祝詞殿があり、その後ろには春日作りの本殿が鎮座している。その右隣には明治以後、氏子出身戦死者二十九柱を祀った流造の護国靖国之宮がある。社の左側へ行くと、山の神竜王山に続く道ある。由来記によると741年聖武天皇の時代に国分寺及尼寺建立のため伊賀に入った朝廷の宮人たちが地元住民が竜神のいる聖地と仰いでいた竜王山を道標と仰ぎ敬ったそうである。また、竜王山に入る山道の手前に勧請縄が掛けられ種々の藁飾り（藁細工）や、股木などが吊り下げられており、現在でも人々の祈りが感じられる。この竜王山の懐にある応感神社はサカキ、イヌマキ、ヒノキ、ヤブコウジ、アリドオシ、ヒサカキ、カナメモチ、テイカカズラ、ツブラジイ、スギ、ヤブツバキ、クスノキ、サクラなどの緑に被われている。また、境内には参籠舎、宝物庫、神饌所、社務所もみうけられる。

宝物としては太刀（銘 高俊作）一口、脇指（銘 豊後国義国作）一口、棟札一枚（1636年）や1708年に制作された木造狛犬一対が安置されているそうである。

祭祀は例祭 10月20日、御弓祭 1月6日、春祭 2月20日、祇園祭 7月20日、秋祭 11月23日、雨乞神事 随時、その他年中恒例祭儀13回ある。特殊神事の御弓祭は氏子中より前年男子出生もの及び婿養子の者が射手として奉仕する弓神事であり、約1000年にわたり伝承されていると伝えられている。祇園祭は、祭神建速須佐之男命祀り当屋より祇園歌を氏子中に頒布し無病息災を祈願する神事である。